はじめに、令和2年7月豪雨災害のために亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災され、避難所やご自宅で今なお厳しい状況下に置かれている方々に対しまして、お見舞いを申し上げます。

さて、生徒のみなさん、2日間にわたる定期試験。おつかれさまでした。今振り返ってみて、試験の出来はどうだったでしょうか。うまくいった、ああすればよかった、もっと早くから準備をしておけばよかったなど、の思いがあるかもしれませんが、今だからこそ感じるその思いを次に活かして行ってほしいと思います。

今日は「頭がいいとはどういうことか」について話をします。みなさんには、本当の頭の良さを身につけてほしいと思っています。よく「あの人は頭がいい」とか、「自分は頭がよくないから」といいますが、それは、どういうことでしょうか。

頭がいいとは、頭のはたらきがいい状態であり、頭がいい人とよくない人とを分類するものではないという考え方です。したがって、誰でも、頭が働く状態を増やしておけば、頭は必ずよくなります。

それでは、頭の働きがよいとはどのような状態でしょうか。それは、みなさんにも経験があると思いますが、授業でも「わかった」「できた」「なるほど」「そうすればよいのか」、すっきりと整理された状態の時のことです。逆に、頭の働きがよくない状態とは、何をすればよいのかわからない、すっきりしない、もやもやした状態のことです。だから、誰にでも、「頭がよく働く状態」をつくることができます。

大事なことは、どういうやり方をすれば、どのように考えれば、自分の力を伸ばす

ことができるのか、そのポイントに気がつくかどうかです。

「勉強ができる」部類の大多数の人はやらなくてもできるのではなく、コツコツと努力を積み重ねる中で、自分の力を伸ばすコツ、ポイントに、気がつき、いい状態を再現することができます。

しかし、勉強ができる＝頭がいいというわけではありません。学生的时候は、テストの点数などで評価されることが多く、勉強ができるかどうか、頭のよさを図るものさしであるかのように思えますが、学生という立場が終わり、社会人になると、就職した会社や現実の社会の中に適応できるかどうか問われてきます。

勉強ができれば社会に出てからも「頭のいい人」としてやっていけるかという、そうとは限りません。すごい学歴をもち、社会的に高い地位に就きながら、法を犯してしまう人もいます。ときどきニュースにもなります。どんなに勉強ができた人でも、人としてやってはいけないことの判断がつかない人は、本質的な所で頭がいいとはいえません。一方、学生時代の成績は話題にはなりません、大人になってから社会で大活躍したり、大成功したりする人もたくさんいます。そのような人たちは、大人になっていきなり才能が開花したのでしょうか。そうではないと思います。おそらくそういう人は、子供のときからテストの点数とか学校の成績では図れない種類の頭の良さをもっていたのではないかと思います。

一例を挙げると、世界の舞台で活躍する一流スポーツ選手は、とても頭がいいと思います。現在では、スポーツ選手の脳の働きが、科学的にとらえられるようになり、一流選手になれる人は、頭の働かせ方がうまいという認識が広がってきまし

た。頭の働かせ方は、勉強はもちろん、部活動に集中することでも頭のよさを磨くことにつながります。どうやったらヒットを打てるのか、シュートが入るのか、パスが通るかなど、自分には何が必要なのか、今何をすべきかを考え、何のためやっているのかを常に意識してトレーニング・準備しています。一流選手には、もちろんセンスや資質があると思いますが、思考を重ね、質の高い訓練で習熟していく力も半端なくすごい。頭の良さが磨かれているよい手本だと思います。

今を、よりよく動けるということは、先を読んで行動しているからできること。

それが頭のいい生き方だと思います。昨日、将棋の棋聖戦でタイトル獲得の最年少記録を更新した藤井聡太さんの先を読む力も、ものすごいのだと思います。

先を読むというのは、将来を考えるということにもつながります。将来のことを考えるとは夢を描くだけでなく、今の自分と未来の自分との間に道をつくっておくこと、細かな点を一つ一つ打っていくということも含みます。

将来の目標が決まっている人、そのために大学はどのような学部に進んだらよいか、そのためには今何をすればよいかを考えて勉強していると思います。ただ、これからの出会いや状況によって、変わっていくかもしれません。可能性を広げるために、今は幅広く勉強しておくとういと思います。具体的な目標が決まっていない人は、勉強する目的がわからぬという人もいるかもしれません。そういう人は、単純に「頭の働きをよくするため」という目的で勉強してみるとよいと思います。頭は自然とよくなるものではありません。自分で良くしていくものです。勉強は、自分自身を向上させていくための最強のトレーニング方法です。

そして、頭のはたらきをよい状態にする機会は、日常生活の中に満ちあふれています。今、何をすべきか、先を読んで行動できる、「本当の頭の良さ」を身につけ習慣化していきましょう。

1学期もまとめの時期に入ります。今年は、新型コロナウイルスの影響で3年生にとって中学校部活動の集大成となる大会・コンクール・発表会などがすべて中止となりました。大人の誰も経験したことがないことです。前代未聞の状況の中、つらい気持ち乗り越え、ひたむきな姿で部活動に取り組んでいる3年生の姿に私自身も一人の人間として感動しました。3年生の後ろ姿と様々な思いは、これから2年生が中心となり、1年生にも引き継がれていくと信じています。

最後になりますが、新型コロナウイルスについては、連日報道されているとおり、依然として予断を許さない状況が続いています。熱中症対策も含め、健康管理に十分留意して、一日一日を大切にして、過ごしていきましょう。最後までしっかりと聞いてくれてありがとうございました。